

さくら歩楽の会

東鎌倉、頼朝伝説コース
武家の棟梁
源頼朝・英雄の足跡
を辿る

(スタート) 東京駅丸の内北口
10時

平成27年3月18日(水)

大巧寺 (だいぎょうじ)



● 安産祈願のお寺…この寺は、もと十二所にあり大行寺といって、頼朝が、この寺で軍評定をして勝利をえたので、大巧寺と改めたと伝えられる。元応元年(1319)にこの地に移り、それまで真言宗であったが、のち住職が日蓮に帰依して日蓮

宗に改宗した。産女霊神(おむめさま)の由来は、天文年間(1532~1555)の頃、難産のため母子ともに死んだ女が、怨霊となって諸人を悩ましていたのを、この寺の第五世・日棟上人が迷いから救いだし、安産の神として祀ったという。



日蓮聖人辻説法の跡

● 日蓮大士辻説法霊跡と書かれた石碑と日蓮腰掛石と呼ばれる石が並び



● 建長5年(1253)に鎌倉入りした日蓮は、松葉ヶ谷の草庵から毎日のように小町大路に出向き、人々に法華経を説いたという。激しい迫害にもあつたが、屈することもなく布教を続けた。

うつのみやず しばくふあと 宇都宮辻子幕府跡



区切られた鶴岡八幡宮南側の、現在宇都宮稲荷がある辺りに幕府を移した。ここで12年間政務が執り行われた。

● 「宇都宮」の名は、頼朝が幕府を創設した当時の有力な御家人・宇都宮朝綱が、ここに邸宅を構えていたことによる。

● 宇都宮稲荷は、当時から御所内にあったという。

● この一帯が大倉から移転した宇都宮辻子の幕府跡とされる。辻子とは、小路のこと。ここでは西の若宮大路と東の小町大路を結ぶ小路。
● 嘉禄元年(1225)に尼将軍・政子が死ぬと、4代将軍・九条頼経を擁した執権の北条泰時は、頼朝が執政した大倉から、若宮大路と小町大路に

みょうりゅうじ 妙隆寺



● 一帯は鎌倉幕府の有力御家人だった千葉常胤の子孫胤貞の別邸跡と伝えられる。胤貞は祖先追福のため至徳2年(1385)に創建し、中山法華経寺の日英上人を開山に迎えた。第二代日親上人は、室町幕府の拷問に耐えたことで「鍋かむり日親」と云われ

る。本堂右手に日親上人が水行した池がある。
● 墓地には、広島で被爆死した「新劇の團十郎」こと名優「丸山定夫」の石碑がある。モリエールの戯曲「守銭奴」のアルコパンに扮した丸山の浮彫にされた石碑の前には献花が絶えないという。

若宮大路幕府跡



● 大倉、宇都宮辻子に続く3番目の幕府跡です。嘉禎2年(1236)に宇都宮辻子から幕府が移され、元弘3年(1333)の幕府の滅亡まで、この地で約一世紀にわたって北条氏の執権政治が行われた。若宮大路の東側に面していたため、若宮大路幕府という。この移転は4代将軍・九条頼経が大病を患い、その病の原因が宇都宮辻子の土を司る神が祟りをしているためと考えられたからである。

● 写真は、大佛茶廊の前に立つ若宮大路幕府跡の説明の石碑です。

とさのほうしやうしゆん 土佐坊昌俊邸跡

- 土佐坊昌俊は、渋谷重国の子で金丸王丸といい、その住居跡に石碑が立っている。伝えでは、源義朝(頼朝の父)に従っていたが、平治の乱で義朝が没すると、出家して僧となった。
- 頼朝と義経との関係が悪化して、義経が叔父の源行家と手を握り、頼朝

追討の宣旨を下されたい旨を後白河法皇に奏上した。

- 一方、頼朝は、刺客・土佐坊昌俊を京に送って義経を暗殺しようとした。文治元年(1185)10月17日、土佐坊昌俊は京・六条室町の義経邸を60余騎で襲ったが失敗し、昌俊は捕まり、六条河原で斬られた。

宝戒寺 (天台宗)



- 上野写真は「萩寺」の名で親しまれている宝戒寺の参道です。9月中旬ごろ、この参道と境内一面に咲く白萩はみごとで、白曼珠沙華も清楚に咲いていることもよく知られています。

- この地は北条得宗邸があった場所です。建武2年(1335)、後醍醐天皇が北条一族の霊を弔うため、足利尊氏に命じて建立させた。創建にあたっては、国宝的人材の育成と修行の場となるよう天台密教の道場として戒壇院がおかれた。本尊は子育経読地蔵大菩薩(国重文)です。

大倉幕府跡



- 大倉幕府とは、治承4年(1180)に頼朝が居を定めた場所で、敷地の中央に寢殿があり、御所で政務が執り行われた。頼朝が征夷大將軍となると、その邸宅は「幕府」と称された。嘉禄元年(1225)に宇都宮辻子に移されるまで、2

代將軍・頼朝、3代將軍・実朝を経て、尼將軍・政子の時期までの45年間にわたって武家政治の中核機能を果たした。敷地の規模は、東西は清泉小学校の敷地から横浜国大附属小中学校の敷地の境界までの約270m、南北は金沢街道から頼朝の墓がある丘の下の道路まで約220mの区域であったという。

- この敷地には東西南北に門が設けられ、今も地名に残る東御門、西御門である。

しらはたじんじや 白旗神社

- 祭神は源頼朝。古くは頼朝を祀る法華堂があった。「吾妻鏡」によると法華堂の創建は文治5年(1189)。江戸時代には、鶴岡八幡宮の供僧相承院が兼務。明治の神仏分離で、堂は廃され、明治5年(1872)白旗神社となった。境内は国指定史跡。

源頼朝のお墓

- 石段を登っていくと、玉垣に囲まれた頼朝の墓がある。この場所は、頼朝の持仏堂で、文治5年(1189)聖観音を本尊として建立された。
- 頼朝が正治元年(1199)に相模川の橋の落成記念供養の帰路に落馬して53歳の生涯を閉じると、この持仏堂に葬られた。法華堂と呼ばれ始めたのは、頼朝一周忌後のことである。

荏柄天神社



- 社伝によると、創建は長治元年(1104)。にわかにかき曇った天から天神画像が降ってきたのを人々は恐れ、その場所に社殿を造営し、画像を納めたと伝えられる。源頼朝は幕府の鬼門の守護神として荏柄天神社を崇敬したとされる。本殿は鎌倉最古の神社建築(国重文)。境内に「かつば筆塚」、横山隆一ら154人の絵筆塚がある。

鎌倉宮



- 祭神は大塔宮 護良親王。明治2年(1869)護良親王の遺志を後世に伝えることを望んだ明治天皇の勅命により創建された。鎌倉宮の名は天皇が付けられた。
- 護良親王は、11歳で比叡山延暦寺の大塔に入室。20歳で天台座主になった。
- 父の後醍醐天皇は、元弘元年(1331)、元弘の変によって隠岐島に流されたが、元弘3年(1333)に足利尊氏や新田義貞によって鎌倉幕府は滅びた。その後護良親王は足利尊氏と対立し、捕らえられて鎌倉で討たれた。

覚園寺



- 真言宗泉涌寺派。奥深い境内は静寂としていて古都鎌倉の面影をよく残している。鎌倉最大の茅葺の薬師堂には足利尊氏が書いた棟札がある。十二神像立像(国重文)など佛教彫刻の多彩さは鎌倉有数。また、黒地蔵尊の「黒地蔵縁日」は鎌倉を代表する宗教行事で、多くの参拝者が訪れる。

参考文献:鎌倉観光文化検定公式テキストブック
鎌倉の寺・鎌倉の神社小辞典、鎌倉観光協会案内資料、各寺社のHP、PCウィキペディア